



# 市之倉だより

多治見市立 市之倉小学校 令和8年6月号  
〒507-0814 多治見市市之倉町 10-381  
TEL 0572-22-3702 ホームページ <http://school.city.tajimi.lg.jp/ichinokura/>

子どもたちは、体育参観に向けて忙しくも充実した表情で毎日を過ごし、元気な声が校舎に響き渡っています。ぜひ本番でその成果を発揮する瞬間を観にお越しく下さい。そんな子どもたちが頑張る姿や学校の様子をできる限り毎日HPにアップしています。お時間があるときにご覧ください。

児童と家庭、地域の皆さん、学校職員の笑顔があふれる市之倉小学校となることを願っています。

## 「預かった子どもを 預かったままの姿で返す」

校長

表題の言葉は本校の学校運営のキーワードの一つで、「学校経営の全体構想」というものにも明記しています。子どもたちが「ってきます！」と玄関を出て「ただいま～！」と戻ってくる当たり前を確実に継続させたいという強い願いが込められています。

この当たり前で普通なことをわざわざ掲げるのはいかなるものかとも思いますが、これまで、災害や不審者、アレルギー、熱中症、交通事故など様々な事件事故により、この当たり前であるはずの日常が崩された悲しい事案が発生しているのも確かです。最近では京都府の小学校で痛ましい事件が発生しました。

私は7年前に1週間ほどある施設で学校安全に関する研修を受けさせていただく機会がありました。その期間、学校安全に関するありとあらゆる分野について様々な講師の方にご教授いただきました。その中で、事件事故でお子様を亡くした保護者の方たちから直接お話を聞かせていただく時間があり、その衝撃といいますか苦しい感覚が鮮明に記憶に残っています。

そのお話の中で共通しておっしゃっていたのは、「“学校が一番安全な場所である“ということと“当たり前の生活は永遠に続く”ということは実はすごく脆いもので、あっけなく崩壊するものだった」ということと、「何かがほんのちょっと違っていたら、我が子は命を失うことはなかったのではないか、と答えのない考えが頭の中をめくり続けている」ということです。

後になってからそれらの重大事案を振り返り、検証すると、「あの時ああしておけば…」がたくさん出てきます。

4月～6月は年度初めということで様々な「命を守る訓練」やそれに準ずる取り組みがされます。また最近では豪雨や雷の発生頻度が高く、その見極めも重要です。(先日も保護者の皆さんには雷による急なご対応をしていただきました。ありがとうございました。)

決して毎年行われる形式的な行事ではなく、それらの訓練や教訓は子どもたちの犠牲とその保護者たちの願いの上に整えられたものであることを胸に刻んでいなければならないと考えます。

そしてなにより今日も「ただいま～！」と帰ってきた顔が笑顔であるよう、教育活動を進めていきたいと考えています。



1, 2年生の交流の一場面